

### エヌビズが「女性起業家支援コンテスト」で優秀賞を受賞



昨年12月12日に都内で開かれた「女性起業家支援コンテスト」(経済産業省主催)の個別支援部門で、直轄ビジネス支援センター(以下エヌビズ)が、古町商店街のバー「Bouton」(ボタン)の創業を支援した事例を発表し、優秀賞を受賞しました。12月19日、その受賞報告のため、エヌビズの岡田高幸センター長(41)、『ボタン』経営者の清水舞子さん(42)、永久真弓さん(38)が、市長に報告に訪れました。

ボタンは昨年4月に開店し、朝から夕方時間貸しのレンタルスペース、夜はバーという2つの顔を持ちます。いずれは店舗奥の一軒家を利用して、宿事業を展開する予定です。この店舗を起業した清水さんは、最初は漠然と「宿をつくりたい」と考えていたものの、自己資金がほぼなく、一昨年7月に初めてエヌビズに相談。そこからエヌビズと相談を重ね、現在の店舗の家主と賃貸借契約を結ぶに至り、事業計画・資金計画を綿密に作り込むことで金融機関から融資を受けることができました。開店後も、事業計画の練り上げや、月次計算・資金繰りのチェック、PR活動等に関して、エヌビズが助言を継続してきたことが評価されました。

受賞を受けて岡田センター長は「嬉しいのはもちろんですが、賞をとることが目的ではなく、『ボタン』のことをより多くの人に知ってもらえる機会になればいいと思う。また、起業を考えている女性にもたくさん相談してほしい」と気持ちを新たにしていきました。清水さんは「この賞をとれたのは岡田センター長の『傾聴』の姿勢に尽きるところ。何かを押しつけることもなく、最終的には自分の思ったとおりにさせてくれる。そうすることで自分にも責任が芽生え、開店できた」と振り返りました。市長は「エヌビズの相談件数も増えてきて、このような評価を受けたことは喜ばしい」と話しました。



左から清水さん、岡田センター長、永久さん

### 「家やまちの絵本コンクール」入選報告

昨年12月20日、福地小学校2年生の吉間結香さん(8)が描いた絵本『あやちゃんの帽子』が、「家やまちの絵本コンクール」(往生活月間中央イベント実行委員会主催)子どもの部で入選し、母の和子さんと報告に訪れました。

おばあちゃん手作りの大事な帽子をなくした主人公が、帽子を探す物語。探す過程には、竜王峡の滝や福智山などの地元の景勝地、地域の盆踊り、柱松・千灯明といったお祭りの様子が描かれて、地域愛にあふれています。舌間さんは、これらの行事すべてに参加して実際に体験し、行事の由来も自分で調べて絵本に載せました。また、帽子にスクラッチ表現が用いられるなど、巧みな技法も評価されました。もともと絵を描くのが得意な舌間さん。「入賞したと聞いたときはうれしかった」と受賞の喜びを語りました。

市長は「この福智山の絵はほんとうによくできている。これからも好きな絵をたくさん描いて、来年は大臣賞をとれるようにがんばってください」と激励しました。



地元の催し「丑相撲」や「柱松」などを生き生きと表現

### フットサル全国大会へ出場 川崎FC 藤岡侑来さんが訪問

田川郡川崎町を拠点に活動するサッカーチーム「川崎FC」に所属する藤岡侑来さん(直方第一中3年)が、1月開催の「JFA第24回全日本U-15フットサル選手権大会」へ出場するため、昨年12月26日に報告に訪れました。

昨年8月の筑豊大会、9月の県大会を制し、11月の「KYFA第24回九州U-15フットサル大会」でも見事優勝。全国への切符を手に入れました。チーム創設から約25年の川崎FCは、Jリーガーも輩出する強豪チームに成長。選手たちはサッカー・フットサル両方に出場していて、総勢100人を超える小中学生が所属しています。強さの秘けつは「監督の指導力」「チームワーク」だといいます。全国大会初戦の相手は、北信越の強豪チーム。藤岡さんは「早いうちに相手のプレースタイルを読んで、勝ちにつなげたい。このチームに勝てば全国制覇も見えてくると思う。ぜひ全国制覇を目指したい」と意気込みました。



全国の舞台で活躍することを誓いました

### 全国ジュニア ラグビーフットボール大会で優勝

昨年12月29日から31日に神戸市で行われた「第24回全国ラグビージュニアフットボール大会」で、見事優勝した福岡県代表のメンバー蔵森蔵さん(直方第二中学校3年生)が、1月8日に優勝報告に訪れました。

福岡県代表は、県下のラグビースクールの精鋭が集ったチームで、蔵森さんは中鶴少年ラグビークラブ(中間市)所属。今大会一番の山場は準決勝で、残り3分で同点に迫いつき、その後逆転して決勝進出。決勝戦では先手を取った攻めの試合展開で、33・12と快勝しました。

蔵森さんは、ワールドカップの南アフリカ戦を観て13歳でラグビーを始めました。ポジションはフォワードの左プロップ。ラグビーのおもしろさは「フォワードが体を張ってボールを取りに行くところ」で、今後は「高校で日本一になって、将来は日本代表のジャージを着たい」と語りました。市長は「県の選抜チームに選ばれて、全国優勝するのはすごい」とたたえました。



小学校時代はドッジボールの名手

### 長年にわたる スキー指導員としての功績に顕彰

約25年にわたるスキー指導員としての功績が認められ、西日本スキー指導員会から顕彰を受けた県スキー連盟副会長の池田寛さん(77)が、1月9日、報告に訪れました。

池田さんは20歳のときに、職場の先輩に誘われてスキーを始めました。始めた当初は鳥取県の大山スキー場に通って練習を重ねて腕を磨き、国体の県チームの監督を18年務めるなど、後進の指導に尽力してきました。

近年は、仲間たちと北海道などでスキーを楽しんでいるという池田さん。「スキーがあったからこそ、お酒や賭け事などにのめり込むことなく、健全にやってこれた。スキーを楽しんだ後の風呂と食事が一番の楽しみ。今後とも、とにかくケガのないように注意しながら楽しみたい」と語りました。



スキーを続けてこれたのは「皆さんの支えがあったから」